



関高生に向けて ～客観的に物事を捉えることの大切さ～

◇ 今回は、長谷川将也さん（青山学院大・広告代理店勤務）のレポートです！

◆自己紹介

2013年 岐阜県立関高等学校 卒業

2017年 青山学院大学 社会情報学部 卒業

現在 外資系広告代理店 勤務

1 はじめに

「活躍する卒業生」という主題がついておりますが、そんなにも仰々しいことを私の方からは言えないので、皆さん、是非、ざっくばらんに閲覧くださいませ。

さて、上にも書かせていただきましたが、軽く自己紹介から始めたいと思います。1993年生まれ、現在、外資系広告代理店に勤務しております。人生の大半は野球に打ち込み、大学も硬式野球部に所属し、神宮球場で試合に出たりもしておりました。

高校の同期や先輩、後輩が研究や大学時代の華々しい内容を書いておりますが、とりわけ私はマインドセット的な面を伝えることができたら、と思っております。



2 物事を客観的に捉えてみよう

さて皆さん、何かしらの美学って持っていますか？

例えば、「〇〇塾流の勉強の仕方が良い」、「筆箱の中身はペン1本と消しゴムだけ」、「制服の着こなし方」などのように。美学が適切な言葉かはわかりませんが、スティーブ・ジョブズは「イッセイミヤケの紺タートルネック、リーバイスの501、ニューバランスの991」と毎日着る服に強いこだわりがあったようです。他人には譲れない価値観を持つことはすごく素敵です。

また、「郷に入れば郷に従え」と言う言葉があるように、最初は、道しるべや、指南となるもの信じて、前進していくことが大切かと思えます。例えば、「目標は有名国公立大学に行くこと」と言ったように。

しかし、この制服の着こなし方って、周りからどう思われているのか。なぜ国公立大学に行くべきなのか。私大ではダメな理由はなんなのか。

マザーテレサかよって思うかもしれませんが、次の命題も面白い例かと思えます。「好き」の反対は「無関心」。普通、好きの反対は嫌いなのに、どのような心理でこの言葉を残したのか。主観的に考えるのは簡単ですよ。我思う故に我あり、ですから。しかし、客観的に考えることは非常に難しいです。ある事象に対しての意見は少なくとも自分の経験や体験に基づき、バイアスがかかってしまうからです。己

と切り離して考えるって難しいですね。ただ、客観的に物事を見ることができたら、非常に便利です。

① コミュニケーションにおいて論理が破綻していないか気づくことができる

② 相手と自分の主張を組み合わせて最適解を導き出せる

例えば、②の例として、好きな子がいるけど、どのようにデートに誘おうか。彼女の好きなものは何か。そういえば、イタリアンが好きとっていたから、食事に誘ってみよう。デートに行こうと誘うより、美味しいイタリアンのお店があるんだけど行って見ない？と聞いた方が、デートできる確立はぐんと上がりますよね。自分＝デートしたい、彼女＝イタリアンが食べたい、と双方のニーズに合わせた最適な解を導き出しています。

じゃあ、どうすれば客観的なものの見方をできるようになるのか。

私は、常に「なぜ」と言ったように疑問を持つようにしております。なぜならば、疑問を持つことで、質問ができ、仮にその質問の答えが十人十色だとしても、共通項を見つけ出すことができれば、一般的な考え方として、自分自身にインプットできるからです。企業の課題を広告という手法を使って解決する、いわば、コミュニケーション活動のお手伝いをする会社で働いているため、一般論として、この事象はどのように捉えられるのだろうかと考える癖が知らずのうちに着いたのかもしれませんが。職場環境に、国籍を超え、様々なバックグラウンドを持つ人間が多いことが少なからず影響しているかもしれません。

今一度、身の回りで起きている事象に対して、立ち止まって考えてみましょう。他人では考えられないようなエッジの効いたものを見方ができるかもしれません。

デジタルネイティブの皆さんなら、検索エンジンを叩くだけでなく、SNSなどを使い、容易に情報を入手できます。その目に見えない情報を武器に、自分の頭で考え、計画・行動・反省・改善を繰り返すことによって、この情報化社会の中で付加価値の高い人間になることが大切かと思います。

